



## 2026(令和8)年3月例会のご案内



# 第56回 総 会

第56回総会を開きます。会員の皆様の参加をお願いします。  
インフルエンザが再流行し、警報レベル達したと報じられています。  
マスク等の安全対策の上ご参加ください。

**日 時** 令和8年3月22日(第4日曜日)

◆ **場 所** 平群町総合文化センター (2F 研修室1A・1B)

※前年とは会場が異なりますのでご注意ください。

※総会後は総会会場や控え室(中会義室1)などで各自食事を取り、  
午後は葛本隆将 学芸員による下記講演を受講します。

演 題 : 「中世龍田氏と龍田城」

### ◆ **日 程**

- |                   |       |   |        |
|-------------------|-------|---|--------|
| ・会場準備(役員用机・椅子配置等) | 9:15  | ～ | 9:30   |
| ・受付・集金(会費)        | 9:30  | ～ | 10:00  |
| ・総 会              | 10:00 | ～ | 11:40  |
| ・昼 食(弁当など各自用意)    | 11:40 | ～ | 13:00  |
| ・講 演              | 13:00 | ～ | 14:30  |
| ・集合写真撮影・会場後片付け    | 14:30 | ～ | 15:00頃 |

### ★雨天の場合でも総会・講演は実施します。

※①総会当日に議案書・会員名簿・鳥兔104号を地区幹事(幹事不在の方は個人)に配布します。

※②総会委任状をこの会報に同封しています。

ご都合が悪く総会欠席の方は委任者名を自署の上、3月6日(金)までに河本宛に投函願います(6日消印有効)

※③総会終了後、集合写真を撮ります。時間がある方はお残りください。

## 《地区の幹事様へおねがい》

日頃より、史蹟を守る会の幹事として各地区の会員の方々との連絡調整にあたって頂きありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

本年も総会の日時が近づいてまいりました。年度末にあたってご苦勞をおかけしますが下記の事項についてよろしくお願い致します。

### I. 2026(令和8)年度(令和8年3月～令和9年2月)3,000円の年会費集金について

- ・本会報と共にお届けする「領収書」の右端を切り離して、集金時に会員さんにお渡し下さい。
- ・会費は、3月22日の総会当日に、受付横の会計係までまとめてお渡し下さい。

※ 休(退)会を申し出ている方の領収証はありません。

### II. 2026(令和8)年度の名簿作成について

現在、令和8年度の会員名簿を編集中です。

下記の事項について、未連絡の地区は3月6日(金)までに河本までご連絡下さい。

- ① 2026年度の地区幹事様を決めてご連絡下さい。(未連絡の所)
- ② 新会員・休(退)会者が、分かっている場合ご連絡下さい。
- ③ 会員の住所変更などがあればご連絡下さい。

連絡先 河本雄治 携帯 080-6112-3406 E-mail candynogg@kcn.jp

## 《会員の皆様へおねがい》

### I. 総会準備作業の応援のお願い

総会資料(議案書・会員名簿)の印刷、製本、仕分けを次の通り実施します。

- ・ 3月10日(火) 午前9:15～午後1時  
(都合の良い時間帯においで下さい)

作業場所：総合文化センター1F/中会議室1(正面玄関左)

### II. 総会当日の会場設営作業応援のお願い

今回は平群町総合文化センター2階の研究室で総会を実施します。

総会当日[3月22日(日)]9:15から椅子配置、名札貼付、音響装置配置など総会会場準備をします。

以上、ご都合のつく会員の皆様のお手伝いをお願いします。

## 2026（令和8）年2月例会（2月8日）報告

～上町台地北端「難波宮・大阪城」を歩く～ 担当/河本・福嶋・別所

今回の例会は考古愛好家の別所会員が森ノ宮地区の神社・史跡および難波宮跡を、福嶋役員が大阪城内史跡を分担して説明があった。天気の方はこの冬一番の寒気団接近で厳しい寒が予報されていたが、予報通りの厳しい寒さと降雪（午前中）をぬっての見学となった。

最初の訪問先は聖徳太子建立の**森之宮神社**。この辺りも淀川の沖積平野で、発掘された遺物・縄文人骨が近くのピロティホールで展示されている。

次は細川忠興夫人（ガラシャ）が石田三成の人質要求を拒んで自刃した屋敷跡にある**越中井**を經由して**聖マリア大聖堂**に着いた。聖堂では日曜ミサの最中で、静かに高山右近と細川ガラシャの像などを拝観した。

その後、西に向かってしばらく歩き、広々とした**難波宮跡**に出て、大極殿跡近くの大きな立木の下に集い、別所氏から前期難波宮跡（孝徳天皇）と後期難波宮跡（聖武天皇）の話と、当時この辺りが国内外通商の窓口であったなど、自身のここでの発掘調査の思い出話を交えて説明があった。

大阪城見学は大手門前で立ち止まり、豊臣大阪城と徳川大阪城の比較、千貫櫓の役割などを聞いた後、寒さのせいか観光客がまばらな**大手門・多門櫓・千貫櫓～空堀～桜門**の史跡を順番に見学した。桜門前の巨石・振袖石には改めて大きさに一同圧倒され、「どの様に運んだのだろう～？」と首を傾げた。

その後、桜門を再度渡って**一番櫓～昼食場所の梅林**着。期待した梅の花は色とりどりに2～3分咲きでまずまず。その頃には雪も止み、銘々にベンチなどでお弁当を開いた。

昼食後は**極楽橋**にて最近オーストリアで発見された豊臣時代の極楽橋の屏風絵が紹介され、秀頼・淀君親子が自刃したとされる**山里丸**を経て解散場所の**天守閣**に到着。現在の天守閣が昭和時代に豊臣大阪城の絵図を元に徳川が築いた石垣の上に再建されたとの説明があった。

ここで本日の例会を解散し、大部分の方は極楽橋を再度渡って**JR 大阪城公園駅**から帰途についた。

[参加者 15名（内当日会員 1名）



森ノ宮神社



難波宮跡



桜門にて



梅林より大阪城を望む



極楽橋

☆☆☆平群町広報誌(令和8年2月号)に、剣上塚古墳設置説明板の  
除幕式と町への寄贈式の記事が掲載されました☆☆☆

**剣上塚古墳に説明板が完成しました!**

昨年12月20日、町指定史跡の剣上塚古墳(若井)で新しい説明板の除幕式が執り行われました。この説明板は、平群史蹟を守る会が地権者の許可を得て、剣上塚古墳の隣接地に設置したもので、製作費用は元会員の故・布澤芳春さんの遺志に基づきご遺族からの寄付によってまかなわれました。

式典では、河本会長が主催者を代表し、説明板製作に至る経緯と意義について説明されました。また来賓代表の西脇町長からは、会の取り組みへの感謝と活用への期待、そして魅力ある歴史のまちづくりへの所信が述べられました。

出席者一同による序幕により、新たな説明板が姿を現し、町への寄贈目録が河本会長から上田教育長に手渡されました。

剣上塚古墳は、今から20年前に行われた発掘調査によって、石室のつくり方が竪穴式から横穴式に移り変わる時期の先進的な特徴をもつことや、町内の古墳では最も古い時期(5世紀中頃〜後半)に属するものの一つであることが明らかになりました。この時に出土した馬具の杏葉3点は、平成21年に町指定文化財に指定されています。

新しい説明板には、発掘調査時の貴重な写真や解説などが掲載されています。

ぜひ一度現地でご覧ください!

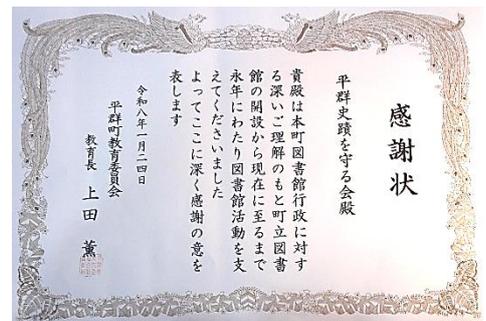
町 教育委員会総務課



☆☆☆感謝状を頂きました☆☆☆

令和8年1月24日、平群町立図書館開館20周年記念式典が開催され、当会も感謝状を頂きました。

今後お互いに協力しあっていきたいと思っています (河本)



# ふるさと ⑦

## へぐり再発見



### 横穴式石室

横穴式石室は古墳の埋葬施設の1つで、その名のとおり横から出入りできる石組の部屋のことです。

古墳の主体部(埋葬施設)には色々な形態が有りますが、平群谷の古墳では大部

分がこの石室を使用しています。

横穴式石室は、図のように遺体(棺)を収める玄室と通路にあたる羨道部分があり、閉塞部分を開閉することにより出入りすることが出来ます。

これにより、石室構築後に追葬することが可能で、古墳自体が個人墓から家族墓へと変わっていきます。従来の埋葬施設では1人づつに個別に造る必要がありますが横穴式石室では最初だけで良く便利なものでした。

追葬の人数は発掘調査をしないとわかりませんが、三里古墳では6人の埋葬がわかっています。

横穴式石室は玄室と羨道の接続部分、袖の形状から片袖式と両袖式に分けられ

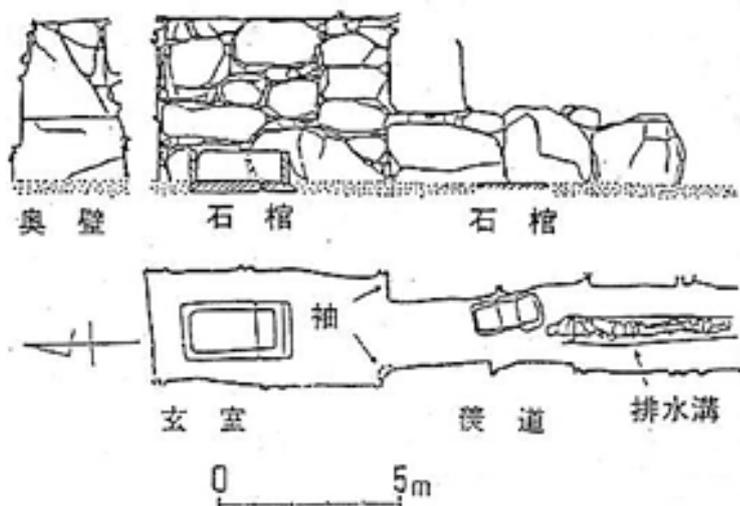
ます。

平群谷では6世紀前半に片袖式から両袖式へ変わりますが、袖の幅も新しくなるにつれて狭くなります。また、使用される石材も自然のものから加工した切石へと変化します。

平群谷に分布する古墳の

石室は大小・新旧あり、その形態変化を知ることが出来ます。

平群の古墳は、横穴式石室の展示場と言ってもよいでしょう。



烏土塚古墳  
横穴式石室(両袖式)

291号 1988-10月

# みんなのひろば



## 平群野」は魅力がいっぱい

平群町立図書館は今年開館20周年を迎え、さる1月24日に記念式典が開かれました。その際、多くの関係団体・ボランティア団体と並んで、当会も感謝状をいただきました。図書館との共同企画『平群探訪/平群野を歩く』の活動が評価されてのことでした。

奇しくも役員会で、来年度から『平群野を歩く』シリーズを例会として復活させようと決定した直後のことでした。今年10月例会として、町南部と中央部を歩くコースを予定しています。奮ってご参加ください。

さて、この式典では橿原の「勧請綱掛け」を継承しておられる、山本さんの講演もありました。人口減少やコロナ禍などで維持・継続が困難になった伝統行事を守ろうと4年前に保存会を立ち上げたそうです。綱打ちの担い手が男性に限られた風習を見直し、女性、こども、地区外からも広く参加者を募るとともに、由緒をわかりやすく伝えるために紙芝居も作られました。

「勧請綱掛け」は、平群町内の数か所でも行われていたと会員の浅野さんから伺い、図書館で調べたら「ふるさと平群再発見」(昨年から会報に転載を開始)の105回(1996年12月)に、鳴川、福貴畑、信貴畑、久安寺でも行われていたとありましたが、現在でも信貴畑には2か所あって計6ヶ所で続けられているそうです。

橿原ではここ数年、1月第2日曜日に開催されていますが、会の例会と重複するため参加を見送らざるを得ませんでした。せっかく平群に住んでいるのだから一度、実際の行事をまじかに見たいものです。来年あたり、例会としてこの行事に参加するのも良いかなと思っています。

橿原



(上庄台 繁田)



信貴畑

清滝



久安寺  
素戔嗚  
神社



元山上駅「子綱」

平群史蹟を守る会